

麻生すこやか通信

VOL. 44

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2023年7月



3年半続いた新型コロナウイルスへの対応も、5月8日から「5類感染症」へ移行し、ゆっくりではありますが徐々に世間一般でのコロナへの対応の緩和が進んでいるようです。街行く人々の中でもマスクしていない人が次第に増えておりますが、病院内では残念ながらまだマスクは不可欠でフェースガードもまだ使用しています。私も6回目のワクチンをももちろん打ちましたが、まだまだ安心は出来ない状況です。それでも学会活動は現地開催で行われるようになりました。4月の富山での学会、5月の大阪での脳神経外科コンgres、6月の名古屋での脊髄外科学会、Asia Spine meetingとこの3年の鬱憤を晴らすかのごとく、各学会に多くの先生方が参加していました。

私も日本脊髄外科学会の理事長としての2年の任期が無事に終了し、脊髄外科学会の理事会では最後に大きなプリザーブドフラワーを記念にいただきました。学会ではマイページの導入を行い、外保連の仕事、整形外科との共通専門医の仕事などを行うことが出来ました。学会主導の臨床研究の結果、髄内腫瘍の研究では10以上の英語論文の共著者となりましたが、当院での髄内腫瘍の手術件数は日本で一番多いようでした。ご紹介いただいている先生方に感謝しております。

最近の出来事の一つとして2006年に岩崎喜信先生と作成した「脊椎・脊髄疾患の外科」の改訂版が同期の小柳泉先生（北海道脳神経外科記念病院院長）と共同編集でようやく出版に漕ぎ着けることが出来ました。もうすぐ装いも新たに出版されますので、どうぞご期待ください。



院長 飛驒 一利

前日本脊髄外科学会理事長、日本脊髄障害医学会理事、日本脳神経外科専門医、脊髄外科指導医、北海道大学脳神経外科同門会会長

また当院では、コロナ禍で2年間ストップしていた脊椎内視鏡の導入とウェルウォークの導入が正式に決まりました。内視鏡は6月下旬に導入され、笹森先生達がより低侵襲な手術手技ということで、適応を選んで手術が行われます。ウェルウォークはリハビリの支援ロボットですが、患者さまがゲーム感覚でリハビリを行うことが出来ます。北大のリハビリ科のご協力を仰ぎながら安彦先生達が9月から当院でも患者さまに使っていただきます。

4月から期限付きながら米国留学から帰国した伊師先生、富山大学からの研修医の古賀先生と一緒に働いてくれています。また外来の強力なメンバーとして多田先生が麻生脳神経外科病院にきてくれました。活気溢れる医局となっています。私自身は毎日の外来、手術などの診療を行いながら、来年の脊髄障害医学会の会長を行うことになっております。どういった学会にしようかと後輩の諸先生ならびに他の領域の先生方のお知恵も借りながら準備を進めていこうと思っています。

📷 写真はご縁があって頸椎の治療のために来られたベトナムのハノイ大学の先生から退院する際に頂いた絵です。外来の廊下に飾っておりますので、どうぞご覧ください。

放射線科(画像診断部)

当院の放射線科は診療放射線技師をはじめとするスタッフ15名で業務にあっており、医師が病気を診断・治療するために必要な画像情報を提供するための検査を行っています。X線検査やCT検査、核医学検査、血管造影検査などの放射線を用いる撮影装置の他、3台の1.5テスラ(磁石の強さを表す単位)MRI装置に加え、更に高精度の撮影が可能な3テスラ装置を含む計4台のMRI装置を稼働させています。病院の方針である「高度先進医療の推進と実践」を目標に、常に「最良の医療」を提供するための「最良の画像」が提供できるようスタッフ一同日々研鑽を積んでおります。また、主な検査は大型機器を使用して行うため、患者さまが不安を抱えず安心して検査を受けていただけるように努めております。



MRI(磁気共鳴画像診断装置)

1.5テスラ(磁石の強さを表す単位)の装置は、現在の医療現場で主力となっている高性能な装置で、鮮明な画像を撮影することができます。3テスラの装置はさらに強力な磁石を用いて1.5テスラよりも精密で詳細な検査をすることが可能で、脳機能に着目した検査や、血流評価等、臓器の働きを調べるような多彩な情報も得ることができます。



CT(コンピュータ断層撮影装置)

一度に64断面の断層画像を撮影することができます。0.625mmという細かい断面のデータを高速に収集しコンピュータで画像処理することにより、脳血管の画像はもとより、脳神経外科領域以外にも全身の詳細な血管の3次元画像を撮影することもできます。コンピュータ技術により、X線の被曝線量を従来よりも少なくすることができます。



DSA(血管造影装置)

動脈内にカテーテルという細い管を挿入して造影剤を注入することで、血管の詳細な画像を撮影することができます。毛細血管レベルの細かい血管の画像や血管の3次元画像も撮影することができます。また、狭くなった血管を広げたり、動脈瘤を治療するなど、血管の内側から治療を行う際に、この装置の画像を確認しながら行います。従来の装置よりもX線の被曝線量が約半分で撮影可能な最新型の装置です。



RI(核医学検査装置)

放射性医薬品を投与し、機能的な情報や代謝、脳血流量やがんの転移などを評価します。CTやMRは主に臓器の形の変化を調べることで病気を診断しますが、RI検査は臓器の機能や代謝を詳しく知ることができます。当院のSPECT-CTはRI装置にCTを組み合わせた装置で、臓器の働きを知るとともに、CTにより臓器の形の異常も同時に知ることができます。



当院では、その日のうちに診察と検査をすることで、**即日検査、即日診断**を心がけております。

新任

ドクターご紹介



医師 多田 光宏

14年勤めた留萌市立病院を定年退職し、4月から外来医として勤務することになりました「じじ医」こと多田光宏です。長年一人で診療をしていたため、脳外科・神経内科・精神科・循環器内科・泌尿器科・眼科など、よろず相談ができるようになりました。しかし、当院の外来は予想を上回る超難問の患者さまが多く少しへこたれております。なんとかそうした試練を乗り越えるため「じじ医の心得」として、働かせていただけることを感謝し、いつも親切第一にする、目だけでもニコニコする、話はよく聞く、説明は丁寧にする、時々ばやく、をモットーとしております。今後も勉強し、ご迷惑をおかけしないよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

1982年北海道大学卒業。1年間病理学を研鑽後、1983年北海道大学脳神経外科入局。1992年医学博士の学位を取得。北大病院および関連病院において臨床研修を行い、1992年北海道大学医学部脳神経外科助手。1992年から1994年スイス・ヴォー州立大学病院に留学、癌抑制遺伝子p53の研究に従事。1999年北海道大学医学部講師(癌研究施設)、2000年北海道大学遺伝子病制御研究所助教授、2007年より同准教授。2009年4月より留萌市立病院脳神経外科診療部長。2023年4月より札幌麻生脳神経外科病院へ勤務。【専門医】日本脳神経外科学会専門医、日本抗加齢医学専門医、米国脳神経外科学会海外フェロー(IFAANS)



医師 伊師 雪友

4月から赴任いたしました伊師雪友と申します。北海道大学脳神経外科の脳腫瘍グループに所属しており、直近までは米国・シカゴのノースウエスタン大学で小児脳腫瘍に関する研究に携わっていました。一人ひとりの患者さまに対して、ベストな医療を提供できるように心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。

2008年北海道大学卒業。北海道大学脳神経外科へ入局し、北海道大学病院を中心に函館中央病院、手稲溪仁会病院、北海道医療センターおよび苫小牧市立病院へ勤務。2021年より米国ノースウエスタン大学博士研究員、2023年4月より札幌麻生脳神経外科病院へ勤務。脳腫瘍を中心に、脳神経外科一般の診療を行う。【専門医・認定医】日本脳神経外科学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、がん治療認定医、日本脊髄外科学会認定医



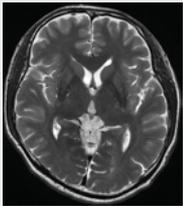
医師 古賀 悠一郎

4月より富山大学から赴任いたしました古賀悠一郎と申します。出身は大阪、幼少期はPittsburghと大阪で過ごし、大学時代は富山で謳歌しました。札幌には大学時代の部活(合気道)で何度か来たことがありますが、仕事では初めてです。さて、赴任してはや2ヶ月経過しましたが、とても働きやすく、しっかり指導もいただき、毎日勉強もしながら充実した毎日を送らせていただいています。仕事面で恩返しできるよう、誠心誠意を尽くさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします！

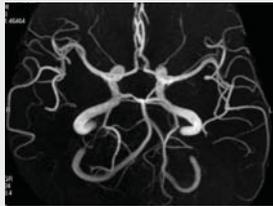
2020年富山大学医学部卒業。2020年4月より富山大学附属病院、富山県立中央病院に勤務。2023年4月より札幌麻生脳神経外科病院勤務。

前兆もなく突然に発症することが多い**脳の病気**

将来発病するかもしれない**脳の病気**を調べるのが**脳ドック**です



MRI画像



MRA画像

*脳ドックは、あくまでも症状がない方の検査です(保険診療外)。頭痛・めまい・しびれ、など何らかの症状がある方は、当院の一般外来を受診してください。

脳の病気はある日突然に発症することが多いのですが、なんとか事前に発見できないもののでしょうか? 当院では2つの脳ドックコースを設けており、年間数百人の方が検査を受けています。場合によっては命の危険につながるような病気をみつけられることもあります。

MRIは磁気による撮影で、精密な脳の断面画像を見ることができます。また、MRAは頭の中の動脈を鮮明に映し出すことができます。磁気なのでレントゲンやCTのような被ばくがありません。この検査で見つかることが多い重要な疾患は、脳動脈瘤や、脳の動脈の狭窄です。脳動脈瘤は、人口の3~5%程度の人にみつかると言われており、将来、くも膜下出血をおこすことがあります。また、脳動脈の狭窄は、悪化すると重大な脳梗塞をおこすことがあります。これらを事前に発見し、対処するために、脳ドックが行われています。

さらには近年、皆様にご心配な「もの忘れ」についても、オプションとして、もの忘れ検査や、脳の萎縮の判定を行っています。

	検査内容	料金
Aコース	脳MRI、MRA、頸動脈エコー	35,000円(税込)
Bコース	脳MRI、MRA、頸動脈エコー 心電図、血液検査、尿検査	43,000円(税込)

脳ドックに関する詳しいご案内・ご説明については、当院ホームページにも掲載しております。

🕒 診療受付時間

月~金 午前 8:45~午後 4:00

土 午前 8:45~午前 11:00

月曜~金曜はお昼休みはございません
救急患者さまは随時対応しております

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄: 南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス: 「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス: 「北24東1」下車、徒歩約2分



ホームページ



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札幌線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。